

平成 30 年度 自己改革への取り組み状況について

JA 大北では、組合員・地域に愛され支持される JA であり続けるため、将来を見据えた自己改革に取り組んでいます。

「自己改革」は、地域農業の繁栄とくらしに JA がなくてはならない組織であることを目指す改革です。組合員・地域とともに一歩先の JA をめざし、平成 30 年度は下記の取り組みを行ってまいりました。

1. 農業所得の増大、地域の農業振興に向けた取り組み

①生産振興と所得増大のための支援

「JA 大北農業開発積立金」を活用し、園芸品目の苗代助成など地域の農業振興に取り組むほか、農産物直売所「ええっこの里」を中心とした直売所への出荷による所得増大にも取り組んでいます。

- ・各種園芸品目の栽培講習会（ジュース用トマト講習会、加工用キャベツ講習会等）、野菜生産振興大会等の開催
- ・直売所の新規出荷者や重点栽培品目における新規栽培者・栽培面積拡大者などへの講習会と苗代の助成
- ・水稲春肥の予約注文による価格対応
- ・生産資材購入の一部助成の実施



ジュース用トマト栽培講習会

②農家の声を直接聞く体制づくり

JA 大北では組合員や担い手農家と役員との直接対話に力を入れています。個別訪問や意見交換会などを通してあげられた率直な声を JA 各事業に反映しています。

- ・南部・中部・北部地区担い手農家等意見交換会
- ・常勤役員による農家個別訪問の実施
- ・各地域での営農懇談会等の開催



担い手農家等意見交換会：白馬村

③レンタル農機の導入

中小規模農家・直売所出荷者などのコスト削減、作業の省力化と利便性を図るため、草刈り機、播種機、耕うん機を昨年 6 月から導入しています。また、大型農機具は全農管理によりリース対応を行っています。

- ・JA 全農長野と共同導入…トラクターなど大型農機
- ・JA 大北独自導入…「自動斜面草刈り機」・「手押しタイプ播種機」・「耕うん機」の 3 機種

2. 組合員や地域の皆さんとともに地域活性化に向けた取り組み

①移動購買車等による買い物支援

移動購買車を用いた山間地への生活用品・食料品の販売により、買い物弱者を無くし、安心してらせる地域づくりの貢献に努めています。また、地域の「見守り活動」としての役割も担っています。

- ・移動購買車は現在、小谷村村内と大町市八坂地区で巡回。
(現在 3 台体制で運行)



移動購買車：小谷村

②子ども、地域住民、デイサービス利用者による三世代交流

大町市常盤の三世代交流施設「ふれあいプラザ」では、同施設内にある通所介護「JA 大北デイサービスえくぼ」の利用者と児童クラブの子どもたち、地域住民との交流会を定期的に行っており、地域の活性化に努めています。

- ・季節の行事での交流会（端午の節句、七夕、クリスマスなど）
- ・施設内の入浴設備を利用した菖蒲湯やりんご風呂の開催

③地域住民への仲間づくり活動

地域の仲間づくり活動として、年金友の会等各組織においてゲートボール・マレットゴルフ大会の開催や旅行などを計画し、実施しています。毎年多くの方に参加していただき、交流を通してお互いのつながりを深めています。

- ・アルプスゲート・マレット大会（年金友の会主催）
- ・はつらつ講座・お達者クラブの実施
- ・女性農業大学の開校



はつらつ講座：ニュースポーツ「ボッチャ」

3. 准組合員や地域の皆さんへ食と農の理解を深めるための取り組み

①次世代を担う子どもたちへの食農教育

次世代を担う子どもたちに農業の大切さを知ってもらうため、実際に定植や収穫を体験する活動等を実施しています。

- ・JA 青壮年部によるチャイルドファーム（池田町）
- ・安曇野まつかわ農業小学校（松川村）
- ・地元保育園への食農教育（小谷村等）
- ・JA 女性部による親子料理講座の実施



青壮年部チャイルドファーム：池田町

②見本市や直売所イベントでの地元農産物・農産加工品のPR活動

地元農産物の魅力を伝え、地産地消に結びつけるため、見本市や直売所イベント等での販売・レシピ提供などのPR活動を行なっています。

- ・第2回 JA 大北農畜産物・農産加工品見本市の開催（2018年10月に開催）
- ・直売所での売り出しイベント、各地区感謝祭等

③収穫体験イベントなどの開催

農業の楽しさと喜びを伝え、理解を深めてもらうため、消費者による収穫体験等の機会を提供しています。

- ・りんごの木オーナー制度
- ・モデルほ場での収穫体験
- ・タマネギ収穫体験（池田町）



りんごの木オーナー制度